

学生生活の今と昔

学生生活支援室長／学生会委員会副委員長

佐野 茂樹 さの しげき

昔と今

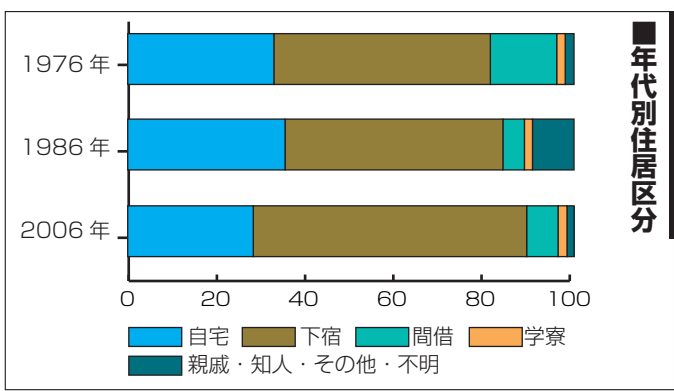
キャンパスライフをエンジョイしている学生のみならず！みなさんのお父さんやお母さんの世代がどんな学生生活を送っていたのか、考えてみたことがありますか。ここでは、徳島大学において長年にわたって実施されている学部学生を対象とした「学生生活実態調査」の報告書をもとに、学生生活の今と昔、その移り変わりを少しだけ眺めてみたいと思います。

住めば都？

学生のみならず「間借」と聞いてすぐに理解できる人は何人いるでしょうか。1976年の調査結果(当時は「学生生活状況調査」と呼ばれていました)によると、住居区分のうち「間借」していた学生が15%となっています。ちなみに、1976年はロッキード事件で田中角栄首相が逮捕され、プロレスNWF世界チャンピオンのアントニオ猪木とボクシング世界ヘビー級チャンピオンのモハメド・アリが格闘技世界一決定戦(期待に反した地味な試合の結果は引

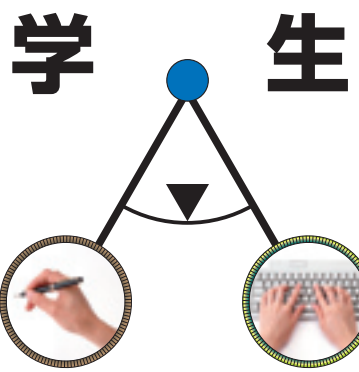
き分けていた)を行った年です。徳島大学ではこの年に歯学部が設置されています。当時は今のように入部やマンションに住むのではなく、大家さんの家の一室を借りるというスタイルがまだかなり残っていたようです。門限が決まっていて、炊事場が共同で、風呂は銭湯(スーパー銭湯ではありません)に行かないといけないなどいろいろと不便なこともありましたが、大家さんや他の住人とのコミュニケーションや銭湯ライフはとても楽しいものでした。それが、1986年になると「間借」と答えた人の割合は5%を下回っています。1986年は徳島県立池田高等学校が3年ぶり2回目の春の選抜優勝を果たした年ですが、NASAのスペースシャトル「チャレンジャー」の爆発や旧ソビエト連邦のチェルノブイリ原子力発電所の爆発といった大きな事故が立て続けに起こりました。月日は流れ、1996年と2006年の調査では親元から離れてアパートやマンションに住んでいる人が全体の約60%を占めるように

なり、現在の標準的なスタイルが確立されたようです。「間借」できるような下宿に住もうという学生はほとんどおらず、そのような下宿もなくなってしまったということでしょう。ちょっと寂しい気になります。このような住居区分の変化につれて、今の住居に「満足している」と回答する学生の割合も過去40年の間に27%から40%へと大きく増加しました。ただし、住居に不満を持っている学生の



学生生活の今

特集

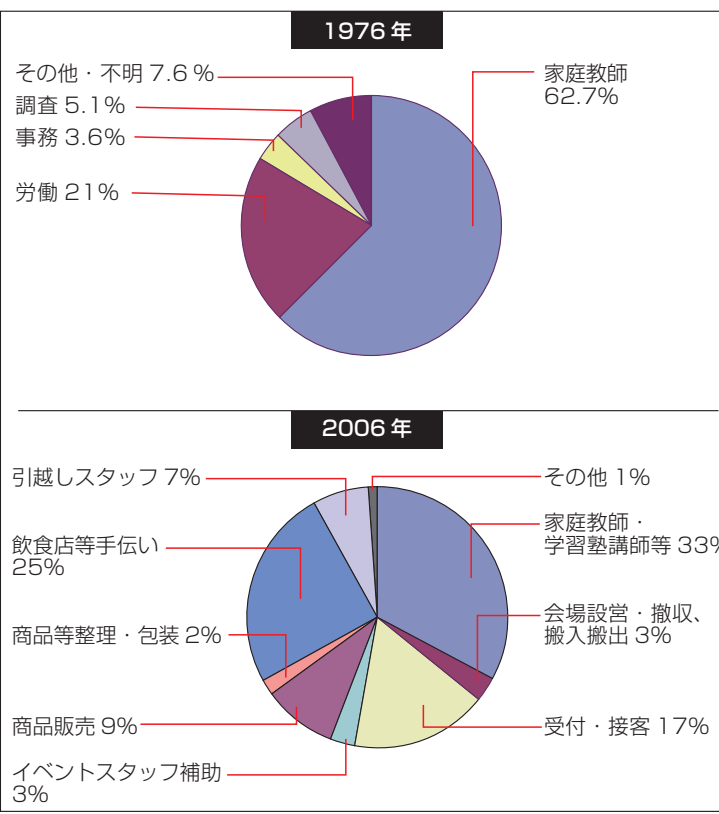


番の理由は今も昔も「部屋が狭い」ということなのです。

アルバイトは学生の特権？

1976年の調査で最も回答が多かったアルバイトの職種は何かわかりますか。これはみなさんが予想されるとおり「家庭教師」という回答で、60%を超える結果となっています。その後の調査では、アルバイトとしての職種の多様化により「家庭教師」の割合は徐々に減少し、2006年になると1位を保ってはいるものの「家庭教師・学習塾講師等」が33%、2位の「飲食店等手伝い」は25%となっています。2006年とい

アルバイトの職種と従事率



えば、徳島市加茂名町庄山の眉山斜面からの救出劇で「崖っぷち大」が話題となった年です。3年前のことですが、忘れてしまっていたという人もいるのではないのでしょうか。昔はコンビニなどが無かったわけですから、学生のアルバイトといえば家庭教師があたりまえだったのでしょう。今では、コンビニやファミリーレストラン、ファーストフード店などどこに行っても学生と出くわす確率が高く、教職員としても戸惑うことが多々あります。



サークル活動はあたりまえ？

1976年の調査では課外活動として「団体」に加入しているかどうかの設問がありました。今で言うところの「サークル」です。加入率は1976年の67%から2006年の74%へと上昇傾向にあります。サークル数が増えたことも一因ではないでしょうか。複数のサークルに加入している学生も多いようです。これは私見です。



が、昔はサークルというと大学非公認の集まりというイメージがありました。何々部と何々サークルでは格の違いがあったように思います。



ます。今の学生みなさんにとってはずべてがサークルということでしょうか。いずれにせよ、人との出会いや交流はこれからの人生において間違いなく大きな財産となります。サークル活動に参加しているみなさんも参加していないみなさんも、「コミュニケーションを大切にして学生生活を大いにエンジョイして下さい。」



昔も今も悩んでいた！

この40年間、「学業・勉学」が調査結果の悩みの第1位を占めています。学生の半分は「学業・勉学」です。悩むのは当然でしょう。2位以下には「就職や進路」、「異性」、「人生」という項目が並んで

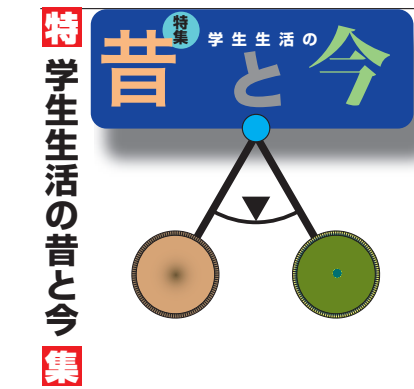
おり、昔も今も学生の悩みは本質的に同じということかもしれません。2006年の調査では、「悪徳商法」や「いたずら電話」、「ストーリー」、「セクハラ」、「アカハラ」といった迷惑行為も調査の対象となっており、学生生活上の問題点は多様化し、世相を反映しているようです。それでは、学生と教職員の間にはどのような関係でしょうか。学生と教職員との交流の度合いは、今昔も学生自身の個性に依存する部分が多いのかもしれませんが。しかしながら、教職員側から学生への働きかけは極めて重要ですので、学生から信頼されるに足ることを目標に、私たち教職員もよりよいキャンパスライフの創造に向けて日々努力を続けなければならぬのは言うまでもないことです。

就職は人生の大きな分岐点！

「就職が決まって髪を切ってきた時、もう若くないさと、君に言い訳したね」というのは荒井由美の作詞作曲でパンパンが歌い、1975年にヒットした「いちご白書」をもつ一度の一節です。当時は男性の長髪が流行していた。学生生活実態調査では就職先を決定するのに何を重視するか

という設問を設けていますが、1976年の報告書では「自分の能力や適性を生かす機会が得られる」という項目が第1位を占めています。1986年や1996年の調査結果でも同様の回答が得られています。2006年になる「就職先の将来性・安定性」を重視するという意見が第1位となっており、社会経済情勢を反映しているのかもしれませんが、学生気分を払拭して真剣に就職活動に臨む姿は今も昔もかわらず、就職活動によって大きく成長し、社会人としての第一歩を踏み出していく学生のみなさんの姿は頼もしい限りです。

1976年から2006年までの学生生活実態調査をもとに、学生生活の今と昔について思いつくまを書かせていただきました。が、いかがでしたでしょうか。みなさんのお父さんやお母さんの世代の学生生活を少しは感じてもらえましたか。現代学生のみならずもたまには銭湯に行き、ゆっくりとお湯につかりながら、遠い昔に思いを巡らせてみてください。意外と新しい未来が見えてくるかもしれません。



特集 学生生活の昔と今 集



医学部医学科2年 加嶋 洋子 かしま ようこ

“Nothing is impossible”



部活動として柔道部に所属しています。日々の勉学のカタワラ、柔道は中学時代から続けており、主な成績としては、中学・高校とも個人戦で兵庫県ベスト3に入り、大学に進学後は、これまでに中国四国医歯薬学生大会(個人戦)で二連覇、四国国立大会(個人戦)で優勝、また国体四国予選・都道府県大会では個人戦で徳島県代表として出場しました。現在は、週2日の蔵本キャンパスでの練習のほか、隔週の月・木曜日には常三島での練習にもできるだけ参加するようになっています。また、土曜日には徳島県内の学校との合同練習にも参加し、文武両道を目指し頑張っています。

なぜ医学部に・・・？

なぜ医学部を選んだかというところ、小学生の時から漠然と医師に興味を持ち、最初は単純に「医師はカッコいい職業」として憧れていました。しかし、中学生のときに祖父の死に出会い、命というものを意識するようになり、祖父に対して何もできなかつた自分がとても悔しくて本格的に医師を目指すようになりました。

なぜ徳島大学に・・・？

兵庫県出身なので、とても兵庫県から近いということや、キャンパスが市内にあり何をすることも便利だ



と思つたこと、また、日本ではなかなかない医歯薬合同のキャンパスであったことが最大の理由です。徳島に実際に住んでみると、自然の豊かさや住みやすさというのを実感でき、徳島大学に入学したことを、今とてもううれしく思っています。

大学のイメージは入学前と今とでは差があった・・・？

大学生活について、あまり不安はありませんでした。実際入学してみると勉強は確かに大変ですが、皆さんの友達に囲まれて、とても楽しい日々を過ごしています。しかし、大都市に近く交通の便も発達しているような他大学と比べると、遊ぶところが少なく、この点は良くも

あり、また悪くもあります。入学前には、友達とたくさんショッピングに行けるかなとも思っていました

が、一年経つた今でも全くそんな大学生らしい遊びはできていません(笑)。入学前のイメージとかわらないことは家事が得意でない私にとって毎日一人で家事をしていくことがとても大変なことだということです。下宿することで両親のありがたみがとてもよくわかりました。

卒後の進路は・・・？

医学について勉強をしている途中で、また自分の目で色々見てから決めていきたいということもあり、今はまだ具体的には決めていません。しかし、柔道を始めてからよくお世話になっている整形外科に魅力を感じています。特に私は、スポーツドクターにとっても興味があります。同じようにスポーツをやる人のお手伝いができたら楽しいのではないかと思っています。

ただ、どの科の医師になろうかが、海外でバリバリ動き、海外でも日本でも自分の目の前で苦しんでいる人がいるなら助けたいです。できる医師になりたいです。

最後に一言・・・

Nothing is impossible. 夢を見つけた、それを現実にするのブクセスは簡単なものではありません。大切なのは、夢に対する強い気持ち、それに向かって努力するこ

と、そして決して諦めないこと。それに向かつて努力した時間は、絶対に無駄ではなく、すべて自分の糧となっていると思っています。

“Nothing is impossible”

叶えられない夢はない。私がいっても自分に言い聞かせている大好きな言葉です。文武両道というように、両立するための厳しさはありますが、小学生の頃に抱いた夢に近づけることができるとも幸せです。そして何よりもプレッシャーに負けそうになったとき、勉強が思うように進まなかったとき、励まし、支えてくれた両親やたくさんの方々にとっても感謝しています。また、自分の心と直感に従う勇気を持たせてくれた柔道に出会えたことを本当に嬉しく思います。これからもこの感謝の気持ちを忘れずに夢に向かつて常に向上心を持ち、自分の可能性を信じて、思いっきりチャレンジしていきたいです。

My life situation	
住居	自宅外 (蔵本キャンパスから 自転車約5分)
通学手段	自転車
生活費[1ヶ月]	
・収入	仕送り10万円+アルバイト代2万円 (家庭教師 2時間/週)
・支出	家賃4万5千円、食費2万円、 公共料金7千円、携帯電話代8千円